

# 東成区の昭和 やぶにらみ日記

絵と文・柳たかを

## 「貧困時代」

僕が6歳ごろの話、世の中は戦後の貧困時代、日本画家だった父は家族6人が食べていくために、戦後ベビーブーム世代の子ども達が就学時に購入するランドセルをはじめとする学用品

で、安価な学用品のカットイラストと言えども、人がコツコツと手で描いていた。

日本画家だった父の技術を見込んで、近所のカバン問屋さんがアルバイト仕事として学用品の絵付け仕事を依頼してくれたようでした。



※父が絵をつけるランドセルが山のように運びこまれていた

長屋の狭い我が家に大量の無地のランドセルやピンクや青いセルロイド製（引火しやすい）の筆箱が山のように積み上げられ、家族はそれら製品の谷間に埋もれるようにして寝起きました。

父がこうした職人仕事をしている数年のあいだは、とりあえずひもじい思いをした記憶はありません。ですが、しばらくすると父はどうしても日本画を描く戦前の生活に戻りたかったようで、命綱の仕

事にワンポイントのキャラクターイラスト、たとえば男児用なら野球選手、女児用ならバレリーナなどが定番でしたが、これらのシンプルなキャラクター画を肌・コスチューム・髪・バットやシューズなどのパーツに分けて図案化し、ラッカー塗料を絵の具にして、面相筆で絵付けしていった。

まだイラストの印刷シールなど存在しない頃

事を減らしたら4人の子どもをちゃんと食べさせられるのか不安になった母にずいぶん反対され、夜中に父の仕事場で物が壊れる音がする夫婦喧嘩もありました。

その時、子どもの僕は、好きな道で自分らしく生きるのって相当むずかしいんだなと大人のような感想を持ったのでした。



やぶにらみ日記 (487)  
**東成区の昭和**

(29) 写生



やぶにらみ日記 (488)  
**東成区の昭和**

(30) 写生





やぶにらみ日記 (489)

# 東成区の沼和



(31) 写生



やぶにらみ日記 (490)

# 東成区の沼和



(32) 写生





やぶにらみ日記 (491)  
**東成区の沼和**



( 33 ) 写生



やぶにらみ日記 (492)  
**東成区の沼和**



( 34 ) 写生



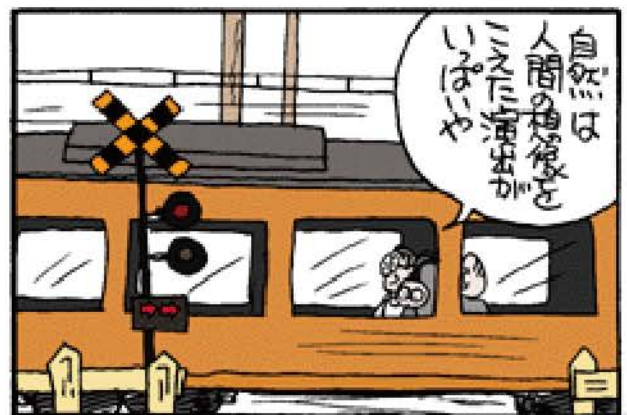












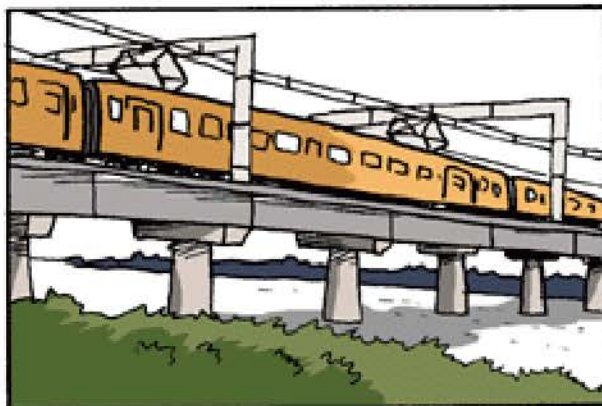
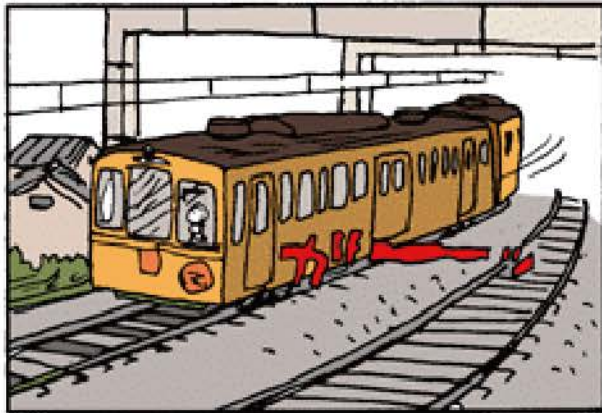


やぶにらみ日記 (499)

# 東成区の昭和



(41) 写生



やぶにらみ日記 (500)

# 東成区の昭和



(42) 写生

